

アート・サポート・センター 神戸 第224回火曜サロン 2011年5月3日(火)18:30start

## 報告会「東北へ行ってきました。アートによる支援を考える」

### ●坪谷令子さん 画家 より

新田新一郎さん(アトリエ自遊楽校/仙台市にある“子どもの遊び場”)の**子どもの笑顔元気プロジェクト**  
<http://kikaku-blog-p-kai.com> について。

こどもたちと遊び、行政への働きかけて活動している。「いのちは競わせるものではなく、慈しみあうものである。」灰谷健次郎さんの甥である、太陽の子幼稚園の園長さんの灰谷政之さんと話しあい、新田さんと連絡をとる。新田さんのプロジェクト、子供のいる現場に現物(人、もの、こと)を届ける。HPが毎日更新されているので、是非見てください。

活動報告ブログ <http://kikaku-bog.p-kai.com>

種をまく 時間がかかるかもしれないけれど、私達の土壌を耕すことでもある。

### ●福島史子さん 神戸アートビレッジセンター より

陸前高田市のプロジェクトに明日から参加。盛岡市発行の石川啄木の本を販売。アートビレッジセンターでも販売している。本日も販売できます。アートビレッジセンターでは映画の物販販売を義援金として送っているの、是非お越し下さい。

### ●米川綾子さん 兵庫県子ども文化振興協会

関西の人形劇団の集まり(大阪)の報告。人形劇団 クラルテさんのチャリティ公演の報告では、自分たちが被災地に入れる状況ではないとのこと。行って帰るだけで200万近くかかる。息の長い活動を考えなくてはならない。テレビの映像とは違う現実。メディアで放映されていない現実、腹立たしい思い。神戸でもチャリティ公演をできるように考えている。

島田————パイプを作っておけば持続して活動をしていける。

### ●栃原敏子さん 画家 より

個人での活動。身近の人から集めたお金で、被災地の子どもに絵具・スケッチブックを送る。送付場所を考えて、自分のパイプのある岩手県の公の手が差し伸べられない幼稚園に送る。子どもたちに直に届けたいと思っていたが、幼稚園に寄付する形になる。第二弾、今現地からの返事を待っているところ。子どもたちが絵を描くような現状ではないのかもしれない。模索し続けている。

### ●岡野亜紀子さん 灘区民ホール

神戸の震災時、神戸アートビレッジセンターの準備室にいた。震災時の無力感とアートでどういことができるのかという可能性、半面、混沌とした状況を思い出す。今、転換期ということが言われている。1995年もそう言われていた。忘れ去られること、風化していくことを思う。同じ体験をした神戸のアート関係者として、東北以外の人たちにも、自分達の経験を表現活動で発信していければと思っている。

### ●河東けいさん 女優 関西芸術座

3月30日 演出者協会 50周年記念の会がある予定だったが中止となった。全国の演出家が東京・本多劇場に集まる予定だった。送られてきた書類には盛岡の演劇人が、被災地に本を送り、読み聞かせ、ボランティアを行うことが書かれていた。東北の奥地(被害が小さい場所)ではまだまだ動けるようだ。現地の動き方に励まされる。一方で会場がつぶれて、(演劇の)公演が中止になって、集まれる状況でない。ふじたあさやさん、原発の問題を青年劇場で芝居「臨界幻想」を作る。千田是也さんの演出。以前に関西芸術座も関西で公演を行うがその時、ジャーナリズムには取り上げられなかった。良心的にやったとだけ報じられる。

周りにはファミリーマーケットで義援金を集める若い人もいる。

今後、チャリティ公演 宮沢賢治を詠む会を6月18日に開催予定。岩手の演劇鑑賞会に義援金を送る予定。未永く思っている。

又、絵描きさん(中西勝)さんや音楽家、酒屋さんとか色々な方が集まり、神戸の震災後より活動を続けている東灘文化協会(中島淳さんが仕掛け人)のメンバーである。自分達を励まそうと立ち上がった活動が今も続いている。

● 古川さん ピッコロシアター

ピッコロシアターの活動の現状について報告。神戸の震災時、県立のピッコロ劇団 は創立半年で被災。

2月より活動を開始した。当時のメンバーと何ができるか、何かしたいと話しをする。劇場として被災地から関西へ来られている方へ、何かできないか(子どもたち向けのワークショップ、公演など)と考えている。

東北の知り合いの演劇人と連絡をとって、情報交換し活動していく。神戸の資料、パンフレットなどを被災地へ送る。

自分達が神戸の震災後、何十箇所と活動に行けたのは、県立劇団だったことが強かったと当時のことをメンバーと話している。

——島田 アート・エイド・東北は仮称であって、立ち上がっていくとしたら現地からだと考えている。現在、立ち上がっているわけではない。社会的な関わりの中でのアートの役割。自治体、NGO、地域との連携が必要。

● 川井田さん 大阪市立大学 都市研究

島田へ質問

「都市文化創造機構 のゆるやかなネットワーク 多彩なメンバー現地での立ち上がりを待つ ということについて、東北のことをもっと知ってもらおうという活動 被災地の表現者をこちらに呼ぶという支援のあり方についてどう思うか。」

——島田

東北関係の支援の助成枠を、公益財団法人「神戸文化支援基金」で考えている。詳細、要綱をまもなく作る予定。

● 根垣りのさん ヴァイオリニスト

チャリティコンサート 6月2日 県立文化センター小ホール19時から予定している。地震前に計画していたコンサートをチャリティコンサートとして開催することにした。神戸文化支援基金を通じて寄付を送る。ピアノ、ヴァイオリン、ファゴットのトリオコンサート。

——島田

仙台で播いてきた種は、仙台一つですが、立ち上がってくる組織そのものはキーパーソンにつながっていっているの、広がりを確信している。民芸のさかんなところ、民芸協会の動きもある。神戸とは距離的に遠いけれど、16年前の震災の経験をもって、距離を越えて、何かできることを考えていきたい。分かちあうことを見つけたしていくことが、我々の仕事だと思う。